

大地震のとき…、あなたは何をしますか

総合防災訓練に参加しよう!!

8月21日に実施

地震発生時から避難所の開設・運営までを皆さんが主体となつて行う総合防災訓練を行います。皆さんがお互いに声を掛け合ひ、総合防災訓練に参加しましょう。

▼とき 8月21日(日)
午前9時～12時

▼小雨実施
【訓練内容】

- ①午前9時に地震発生
- ②自宅から、いつとき避難場所へ避難
- ※いつとき避難場所は地域で定めています。
- ③いつとき避難場所から指定避難所へ避難
(詳細は回覧参照)
- ④指定避難所の開設と運営訓練
(炊出訓練、給水訓練、仮設トイレ設置訓練、物資等搬送訓練など)

※指定避難場所である大磯小学校では、救護所運営訓練も 있습니다。

▼訓練会場

【指定避難所】(7か所)

大磯小学校(救護所運営訓練有り)、大磯中学校、国府小学校、国府中学校、大磯高等学校、障害福祉センター、福祉センター

▼訓練想定

【大規模地震発災対応訓練】

8月21日(日) 午前9時頃 神縄・国府津―松田断層帯を震源とする地震により、建物の倒壊、死傷者の発生。

【地震規模】 震度6強 マグニチュード7.5

▼その他

今回の訓練は、自助、共助を主体に行います。皆さん一人ひとりが災害時に何をすべきか考えながら行いましょう。

※当日は防災行政無線で訓練放送を行います。また、訓練中止の場合は午前7時に町内全域に訓練中止のお知らせを送ります。

◎問い合わせ

危機管理対策室
☎内線 241・244

過去の災害による町の被害 ①

元禄地震 1703年(※1)

元禄16年(1703) 11月に発生した元禄地震では、現在の千葉県、東京都、神奈川県で大きな被害をもたらした。川崎宿から小田原宿まで、ほとんどの家屋が倒壊し、津波も犬吠崎から下田までの広い範囲で沿岸を襲い、熱海では7メートルほどの高さで推定される大津波が押し寄せたとの記録があります。

町では東海道沿いの地面に亀裂が生じ、泥水が湧き出す液状化現象や高麗山などの山々が崩れ、宿場の家屋の半分近くが倒壊し、海では高波浪で多数の漁船が破損したという記録があります。

「大磯歴史物語」より作成

関東大震災 1923年(※2)

大正12年(1923) 9月1日に発生した関東大震災では、東京で最大振幅14から20cmを観測し、死者・行方不明者14万人、家屋全壊消失57万戸という未曾有の被害をもたらしました。

町では死者58人、家屋全壊652戸の被害を受けました。高麗山下付近で列車が転覆して8人が死亡、大磯駅、大磯小学校などが全壊、海岸が約2m隆起し、岩石が突起して、漁船の出入りが困難になるなど、被害は甚大でしたが、火災は起こらず、役場と町民とが協力して、救援活動が行われた記録があります。

「神奈川県震災誌」より作成

大磯に関係する主な地震

和暦	西暦	事項
元禄16年	1703年	元禄地震(※1)
宝永4年	1707年	宝永地震
天明2年	1782年	天明小田原地震
安政元年	1854年	安政東海地震
安政2年	1855年	江戸地震
明治27年	1894年	大磯震度5の地震
大正12年	1923年	関東大震災(※2)
大正13年	1924年	相模地震

「大磯町史」9別編 自然より作成

◎地形の条件により、昔から多くの地震が起こる日本。大磯地域に影響を与えたと考えられる大地震は、江戸時代から現在まで、少なくとも8回は発生したと考えられます。



▲関東大震災で堤防が倒壊した大磯海岸(大震災記念写真帳より)



◀関東大震災で倒壊した大磯駅
「震災記録」大磯警察署1924(大正13)年刊所収

◎問い合わせ 危機管理対策室
☎内線 241